

# 平成19年度 第21回 東海高等学校バスケットボール新人大会

平成20年2月17日(日) 会場:岐阜メモリアルセンター で愛ドーム

## 男子準決勝

<b>飛龍</b> (静岡2位)	10	-1st-	27	<b>101</b>	<b>中部大第一</b> (愛知1位)	
	25	-2nd-	16			
	<b>56</b>	7	-3rd-			37
		14	-4th-			21
<p>中部大第一は2-2-1オールコートプレスディフェンス、飛龍はマンツーマンディフェンスで始まる。中部大第一は、動きのよいディフェンスからボールを奪うと、宇都のシュート、久富の3点シュート、張のゴール下、山本の速攻と多彩な攻めを見せ、次々と得点をあげる。飛龍は相手のディフェンスを攻めきれず、ミスが続く。第1ピリオドは、中部大第一が27-10とリードする。第2ピリオド、飛龍は楊がゴール下で得点をあげペースをつかむと、前田の3点シュートも決まり追い上げていく。前半は中部大第一が43-35とリードして折り返す。第3ピリオドに入ると、中部大第一はオールコートディフェンスの当たりをさらに強め、豊富な運動量と、スピードある攻撃で、宇都、山本、浅井が次々とシュートを決め、40点の差をつける。第4ピリオドに入っても勢いの衰えない中部大第一は、101-56と大勝し決勝へと進んだ。飛龍も選手交代してリズムを変えようとするが、相手のディフェンスを攻めきれなかった。</p>						

<b>四日市工業</b> (三重1位)	25	-1st-	25	<b>85</b>	<b>93</b>	<b>藤枝明誠</b> (静岡1位)	
	20	-2nd-	26				
		16	-3rd-				21
		24	-4th-				21
<p>両チーム、ハーフコートマンツーマンで始まる。藤枝明誠は、藤井佑真、鈴木、藤井佑亮が1対1からドライブを決めると、四日市工業も速いパス回しから、川合、岩田、加藤がシュートを決め、互角の展開で、第1ピリオドは25-25の同点となる。第2ピリオド、藤枝明誠は鈴木がオフェンスリバウンドからシュートを決め、藤井佑亮の3点シュートも決まって、前半を51-45とリードして折り返す。四日市工業は、ディフェンスの頑張りから速攻を決めて一時はリードを奪うが、そのリードを守りきれなかった。第3ピリオド、藤枝明誠は藤井佑真、藤井佑亮がドライブ、速攻と大活躍をし、15点のリードを奪う。第4ピリオドに入ると、四日市工業は脚を使ったディフェンスで相手の1対1を抑え、岩田がドライブ、加藤が3点シュートを決め、残り1分には2点差まで追い上げた。しかし、ここで四日市工業のパスミスが出ると、藤枝明誠は藤井佑真が連続してドライブ、フリースローを決めて、93-85で勝利をつかみ、決勝へと進んだ。四日市工業も粘り強いディフェンスでよく追い上げたが、要所でのミスに泣いた。</p>							

## 男子決勝

<b>中部大第一</b>		19	-1st-	36	<b>藤枝明誠</b>	
		29	-2nd-	11		
	<b>98</b>	23	-3rd-	24		<b>106</b>
	(愛知1位)	27	-4th-	35		(静岡1位)

藤枝明誠、オールコートゾーンプレス、中部大第一、ハーフコートマンツーマンで始まる。第1ピリオド、藤枝明誠は 幸野のジャンプシュート、一木の3点シュートで勢いに乗り、リードを奪う。中部大第一は 張のゴール下、久富のジャンプシュートで対抗するが、相手のゾーンディフェンスを攻めあぐむ。第1ピリオドは、藤枝明誠が36-19とリードする。

第2ピリオドに入ると、中部大第一はディフェンスの頑張りを見せ、山本のジャンプシュート、久富の3点シュート、張のゴール下で追い上げ、終了間際についに逆転に成功する。前半は、中部大第一が48-47と1点リードして折り返す。

第3ピリオドは一進一退の攻防となり、藤枝明誠は 幸野、藤井佑眞のドライブが決まれば、中部大第一は 宇都、張、山本が頑張り、71-71の同点で最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、藤枝明誠は 藤井佑眞の1対1、尹のゴール下シュートで一気に突き放す。その後も優れた個人技を生かして相手の反撃をかわし、106-98で勝ち、第21回東海高等学校新人大会の優勝を勝ち取った。中部大第一も最後まで諦めず、宇都が次々とシュートを決めしたが、追い上げられなかった。

## 男子3位決定戦

<b>飛龍</b>		27	-1st-	18	<b>四日市工業</b>	
		8	-2nd-	25		
	<b>83</b>	22	-3rd-	28		<b>89</b>
	(静岡2位)	26	-4th-	18		(三重1位)

四日市工業、オールコートマンツーマン、飛龍、ハーフコートマンツーマンで始まる。飛龍は 楊の高さを生かしたオフェンスを軸に、前田、秋山がよくシュートを決めて、リードを奪う。四日市工業は 川合の3点シュートなどで追い上げるが、オフェンスのミスが多く、得点が伸びない。第1ピリオドは、飛龍が27-18とリードする。

第2ピリオドに入ると、四日市工業はディフェンスの脚がよく動き、オフェンスでも速いパス回しから、川合がこのピリオドで4本の3点シュートを決める活躍を見せ、一気に逆転する。前半を終えて、四日市工業が43-35とリードする。

第3ピリオド、四日市工業は 岩田、加藤、川合がシュートを決めれば、飛龍は 楊のポストプレーや、宮澤の個人技で得点をあげて、互角の展開となる。

第4ピリオド、四日市工業は 廣が連続してドライブシュートを決めて、粘る相手を振り切って89-83で勝ち、東海新人大会の第3位となった。飛龍も最後まで 前田、林がシュートを決め粘りを見せるが、大黒柱の 楊がファウルアウトになり、攻めきれなかった。

## 女子準決勝

<b>岐阜女子</b>  (岐阜1位)	17	-1st-	16	<b>常葉学園</b>  (静岡1位)
	15	-2nd-	21	
	10	-3rd-	15	
	19	-4th-	19	
61			71	
<p>両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は 上原が速いパス回し、ドライブから相手ディフェンスを崩し、 中村、 森本がシュートを決める。対する常葉学園は激しいディフェンスからリバウンドを確実に奪い、 鈴木、 坂元がシュートを決め、互角の展開となる。第1ピリオドは、岐阜女子が17-16とリードする。</p> <p>第2ピリオドに入り、岐阜女子が 中村の2本の3点シュートなどで一時流れをつかんだかに見えたが、常葉学園は激しいオールコートマンツーマンで相手の出足を止めると、 風間、 西野が次々に3点シュートを決め、一気に逆転する。前半は常葉学園が37-32とリードして折り返す。</p> <p>後半に入ると、常葉学園は相手のディフェンスをかわし、 風間を中心に順調に得点を伸ばしていく。最後まで力強いプレーでコートを走り切った常葉学園が、71-61で勝利し決勝へと駒を進めた。岐阜女子も途中ゾーンディフェンスに切り換え、積極的にスティールを狙ったが、最後は主力選手がファウルアウトし、追い上げることができなかった。</p>				

<b>市立沼津</b>  (静岡2位)	10	-1st-	21	<b>桜花学園</b>  (愛知1位)
	17	-2nd-	15	
	8	-3rd-	22	
	14	-4th-	19	
49			77	
<p>お互いマンツーマンディフェンスでスタートする。桜花学園は、 渡嘉敷(190cm)の高さを生かしたインサイドのハイロープレーや1対1、 後藤のドライブで着実にリードを奪う。市立沼津はスクリーンプレーからシュートチャンスを作ろうとするが、相手の高さのあるディフェンスに苦しむ。第1ピリオドは、21-10と桜花学園がリードした。</p> <p>第2ピリオド、シュートミスのためペースをつかめない桜花学園に対して、市立沼津は積極的なオフenseリバウンドや、激しいディフェンスでリズムをつかみ、 大箸のドライブなどで得点して、互角の展開となる。前半は36-27と桜花学園がリードした。</p> <p>第3ピリオド、桜花学園は 渡嘉敷を中心にリズムをつかみ、 後藤のドライブ、 水島の3点シュートで一気に点差を広げ、59-35で最終ピリオドを迎える。</p> <p>桜花学園は主力選手を休ませるが、 大西のゴール下シュート、 長尾のドライブで着実に得点を伸ばした。結局、高さスピードに勝る桜花学園が77-49で快勝し、決勝に駒を進めた。市立沼津も激しいディフェンスで必死に食らいつき、 大箸を中心に果敢に攻めたが、及ばなかった。</p>				

## 女子決勝

<b>常葉学園</b>  (静岡1位)	16	-1st-	28	<b>桜花学園</b>  (愛知1位)
	17	-2nd-	22	
	11	-3rd-	20	
	28	-4th-	28	
72			98	
両チームともにハーフコートマンツーマンでスタートする。桜花学園は 渡嘉敷の高さを生かし、ゴール下で着実に得点をあげていく。常葉学園も 鈴木のドライブなどで対抗するが、相手の高さの前では単発的な攻撃となる。第1ピリオドは、桜花学園が28-16とリードする。 第2ピリオドに入り、桜花学園は 渡嘉敷が3つ目のファウルでベンチに下がったが、交替した丹羽が、このピリオドだけで16点をあげる活躍を見せ、さらにリードを広げる。常葉学園は、西野、坂元がシュートを決め粘りを見せるが、相手のディフェンスを崩すことができない。前半は50-33と桜花学園がリードして折り返す。 第3ピリオドに入っても桜花学園の勢いは止まらず、深野を中心に、丹羽、本多らが、速攻、ゴール下シュートなどを次々に決めて、さらに得点を伸ばしていく。常葉学園も、1-2-1-1ゾーンプレスを仕掛けるが、ミスを誘うまでは至らない。 第4ピリオド、桜花学園は 丹羽、渡嘉敷の高さを生かした攻撃で主導権を譲らず、最後はリードを守りきって98-72で勝利し、第21回東海高等学校新人大会の優勝を飾った。常葉学園も最後まで諦めずに走り、風間、西野がよくシュートを決めたが、相手の高さ屈した。				

## 女子3位決定戦

<b>岐阜女子</b>  (岐阜1位)	23	-1st-	20	<b>市立沼津</b>  (静岡2位)
	15	-2nd-	18	
	21	-3rd-	10	
	32	-4th-	24	
91			72	
互いにマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜女子は 上原の巧みなドリブルワークから 汪のゴール下シュート、中村のシュートがよく決まり、リードを奪う。市立沼津も 大箸のポストプレー、大石の3本の3点シュートで追い上げる。第1ピリオドは岐阜女子が23-20と3点リードを奪う。 第2ピリオドに入って、岐阜女子はセンター 汪が負傷退場するが、上原が果敢にドライブを仕掛けてシュートを決める。市立沼津は 大箸の力強いポストプレー、金森のジャンプシュートで追い上げ、ついに同点になる。前半は38-38の同点で折り返す。 第3ピリオドに入ると、岐阜女子はマンツーマンディフェンスを厳しくして相手に容易にシュートを打たせず、攻めては途中出場の 岡田が3本の3点シュートを決めるなどして、岐阜女子が59-48とリードを奪う。 第4ピリオドに入っても岐阜女子はディフェンスの足を止めず、相手のミスを誘っては速攻につなげ、宮部、中村のジャンプシュート、岡田がさらに3本の3点シュートを決め、岐阜女子が91-72で勝利を収め、東海新人大会第3位となった。市立沼津も 大箸が攻守にわたる活躍をみせて必死に追いつがったが、差を縮めるには至らなかった。				